

〈成果報告書〉

活動の目的

2024年度秋学期は、秋山美紀と内山映子の2名の教員で合同研究会を開催した。合同研究会合宿では、各自が執筆した卒業論文の発表を通して研究成果を発表する事を目的とする。また、卒業論文を研究室の在學生に報告・共有することにより、卒業生及び在學生の双方が、貴重な学びの場を共有する事ができる。

具体的には、

- ①卒業生は、発表することにより、先生及び他學生の視点から見た意見を聞く。
- ②人前で発表する練習の機会となり、今後就職先でプレゼンを行う時に役立てる。
- ③在學生にとっては、先輩たちの研究成果の内容を先行研究として知ることができる。
- ④多数の発表を聞くことにより、在學生は、研究テーマの選び方、研究の進め方など、卒業論文の書き方を学ぶ。
- ⑤自分の研究内容と似通った研究テーマを持った卒業生から、在學生自身が抱える課題や問題点について個別に教えてもらう。

実際の活動内容



【全体報告会】

- ・4年生の中で当研究会で卒業論文を執筆した学生の中で、当日出席した9人の卒業論文の内容を、在籍する2～3年生に対して報告した。
- ・卒業生は、発表に際して、その研究の研究背景、社会的意義、研究目的、リサーチクエスチョン、検証仮説、研究に用いた手法、得られたデータや調査結果、研究結果、考察などが明確になるように発表した。
- ・在學生は、4年生の研究成果や研究の進め方が、自らが進めようとしている研究内容との類似性や共有できる点を意識して聴講した。
- ・発表内容について質疑応答を行った。

【個別相談会】

- ・上記の全体会議では質疑応答しきれない内容に対して、個別に卒業生と在學生が深く討議できる機会を設けて、より深く研鑽できるようにした。

【就職活動等相談会】

- ・スケジュール上の都合により、全体での時間は取らず、個人的な相談を各々で行った。

【全体懇親会】

- ・卒業生が集まる最後の機会であり、研究室内の親睦を深めるイベントを開催した。
- ・開催内容について学生が主導で企画から実行を行う事で、学生主体の研究会の意義を再認識させる機会となった。

学び・成果

3月に卒業する学生の卒業論文の内容を、当研究会に在籍する1～3年生に対して報告してもらうことで、以下の成果が期待できる。

【卒業生にとっての教育効果】

- ①発表機会を通じて、これまでの自身の研究活動を振り返る機会となり、学部生が各々で今後に向けての学びを得る事ができた。
- ②社会に出てからの必須スキルである”人前でのプレゼンテーション能力”を、卒論報告を通して獲得することができた
- ③資料作成能力の向上に繋がった。

【在校生にとっての教育効果】

- ④在学学生は、先輩たちの研究成果の内容(特に自身の研究と類似した研究)を先行研究として学んだ。
- ⑤多数の報告を聞くことにより、研究テーマの選び方、研究の進め方、卒業論文の書き方等、研究のいろはを学んだ。
- ⑥自分の研究内容と似通った研究テーマを持った卒業生と、個別に相談する機会を設けることで、自身が抱える課題や問題点の解決につながる時間となった。

【コミュニティの強化】

来学期のグループ活動が始動する前に、グループでのまとまった時間が確保できた事により、来期以降の目標や活動内容が明確化され、グループ内での組織力が向上した。また、これまで積極的な交流が測られてこなかった7つのグループが他の活動メンバーと交流する事で親睦が深まった。また、互いのグループの進捗などを共有する事により、グループ同士で切磋琢磨する様子が見られ、研究会コミュニティ全体の強化に繋がった。

今後の展望

【活動成果を今後の研究や教育にどのように活かすか】

- ・卒業生は、自身の卒論執筆を経て得た経験を在校生に伝えることで、コミュニティ全体として上級生と下級生が研究におけるノウハウを共有し合えるような関係性づくりに貢献する。
- ・在校生は卒業生の卒論報告を参考に、来年度の自分達の卒論報告のイメージを膨らませ、役立てる。
- ・卒業生が卒論作成の過程で経験した失敗や反省を、在校生が反面教師として活かし、自身の研究に役立てる。